

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200702		
法人名	トータル・メディカル津沢 株式会社		
事業所名	グループホームひだまり街なか		
所在地	富山県高岡市博労町5-13		
自己評価作成日	令和5年5月15日	評価結果市町村受理日	令和5年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和5年6月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとりひとりの気持ちや個性を大事にし、その人の能力にあったケアを行い、家庭的な雰囲気の中落ち着いて、穏やかに過ごして頂くよう、支援しています。 また、本人だけではなく、ご家族、友人の方々にも安心して頼りにして下さるよう、交流の場を提供できる環境作りに努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・法人理念を基に、事業所、ユニットごとの理念や目標を掲げ、利用者が自宅にいる雰囲気でも過ごせるよう、利用者第一に考えて個別の対応をしている。また、職員の特徴を生かした支援や働きやすい環境、体制にづくりにも力を入れている。 ・地域との交流を密にし、イベントへの参加や防災時の協力体制も整い、関係性はとても良好に築かれている。また、家族には、相談や意見を聞く環境を作り、繋がりを大切にしている。 ・利用者の思いを尊重し、希望を反映させた食事作りや、利用者の行きたい所に出かけるなど、五感を大切にケアを心掛けている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念やユニット独自の理念はいつでも確認できるよう、目につくところに掲示しており、利用者様との信頼関係の構築を目指した独自の理念として「誠実」と決め、実践に向けて努めている。	法人の理念の他、職員全員で各ユニットごとの理念を考え、タイムカードがある場所や生活空間の場に掲示し、理念の周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響により、地域との交流は殆どできていなかったが、今年度より、地域の行事も再開されることから、御車山祭りの見学をはじめ、積極的に参加する方向で運営推進会議を通じ地域の協力を依頼し了承を得た。	地域の方へ、AEDや福祉用具の貸出に協力できること等、回覧板で知らせたり、施設の取り組みを広報したりと良好な関係が保たれている。地域の行事(ボウリング大会等)への参加の誘いがあるが、感染リスクの高い場所への参加はまだ出来ないためお断りしている。今後は少しずつでも参加出来たら良いと職員間で相談している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時の一次避難所に駐車場が指定されており、不足の事態には施設の利用等の協力を行ったり、また、施設にあるAEDや車イス等の福祉用具の貸出を行う事を自治会に広報して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響により、令和4年度は、6月と3月の2回しか集合しての開催はできなかったが、資料を直接委員に持参して意見交換を行っており、主に防災関係と地域参加・交流の話題や地域内の支援者への相談が多い。	事業所の敷地が2つの自治会にまたがっているため、各自治会長や民生委員、地域包括支援センター、家族には全員に参加依頼をし、運営推進会議を実施している。防災や地域交流の意見交換が多くある。会議録は各参加者へ持参したり、家族には毎月のおたよりに載せ周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度等の問い合わせをしたり、市からの通達・報告に協力をしており、電話やメールだけでなく、直接出向いて、質問したり、説明する事もある。	市高齢介護課に電話での問い合わせをしたり、直接出向いて制度の申請方法について聞いたりしている。また、周りの他の施設はどんなことをしているか等聞き、施設運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない環境づくりの為、年4回虐待防止、身体拘束廃止委員会を開催するとともに、年2回研修会を開催したり、ミーティング前に勉強会を開催している。	法人全体での研修が実施されているが、事業所内部でもミーティング前に管理者が主体となり勉強会を実施している。ユニットごとに身体拘束撲滅標語を作成し、目に見える所に貼り職員の意識向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会開催時に虐待防止の為の討議も行っており、さらに、ミーティング時に職員に確認し虐待をしない環境づくりを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を利用されている利用者様が1名おられ、月1回以上来所され、その都度、担当の利用者様以外の事でも、相談にのっていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時、必ず施設の見学をしていただき、施設の内容とご家族様の要望や疑問について話し合い、理解していただいたうえで入居に心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時には必ずご家族様の要望を聞くようにしており、また管理者の携帯には24時間対応しており、気軽に意見が言える関係づくりに努めている。	毎月のひだまり通信と利用者個別のコメント付きの通信に加え、家族会や運営推進会議の記録も送付している。質問や要望に応えるため、管理者はいつでも家族等と連絡が取れるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでの職員の意見を聞いたり、普段から、意見や要望があれば、施設で改善できる事はその都度改善している。また、会社の問題であれば、管理者会議で検討したり、上司に直接進言し反映させている。	普段から職員間での意見交換や要望など言いやすい環境にあり、すぐ改善するように取り組んでいる。人事考課では職員が自分で目標を決め、上司との面談や助言により、ステップアップを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営規則の冊子は誰でも見ることができるように3か所に配置してある。休暇や勤務時間の希望は、できるだけ希望にそうように、シフトを作成するよう留意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回人事考課時、個別の目標を作成し、取り組んでいる。また、管理者が中心になり2ヶ月に1度のペースでミーティング前に項目を決め勉強会を開催したり、希望者にはウェブでの研修会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の出席や地域包括支援センター主催の研修会等に参加し、同業者との交流を行うようにしているが、令和4年度は殆ど参加できていなかった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境の変化による不安感やストレスに考慮し、本人様の話を傾聴し、何を訴えているか知ろうと努め、気持ちに寄りそった対応を心掛け信頼関係が築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には、申し込み時必ず施設を見学していただき、困って居る事、不安な事、要望など細かく聞き取り、施設での対応等を詳しく説明し、納得して頂いたうえで入居をして頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込み時、ご家族様の意向、利用者様の様子等を見聞きして、施設内でできる対応やご家族様への必要な協力ををお話し、出来るだけご希望にそえるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の残存能力を見極め、できる事、やりたい事を、職員や他の利用者様と共にやる事によって、孤立する事なく、共同生活の一員として楽しく過ごして頂くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	機関紙(ひだまり通信)やご家族様への手紙を月はじめに発行し、状況報告を行っている。またコロナ禍の影響で、外出の制限を行っているが、短時間の面会や電話は遠慮なくして頂くようお願いしており、機関紙送付後はご家族様の電話が多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中、面会の制限等で暫く途絶えていた間があったが、前年8月より、面会方法を緩和したことにより、友人・知人等の来訪が増えてきた。また、ご家族様以外のご希望者にも、毎月機関紙・手紙を送付している。	コロナ禍でも玄関の大きな窓越しで面会が出来るため、利用者の家族や友人などが来やすい環境づくりに配慮している。外出に関しても少しずつ緩和している。利用者への贈り物が届いた際には、写真とコメントを送り主に届けるなど心の行き届く支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者様とコミュニケーションが取れない方や耳が遠い方が孤立しないよう、常に職員が間に入って、利用者様同士の関係がうまくいくように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、遠慮なく連絡して頂くようお願いしており、施設や管理者にも時々連絡があり、相談に応じている。また、施設に毎年鉢花を飾るために持ってきてくれるご家族様もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に聞いた情報と共に、生活しながら、本人様、ご家族様からの新たな情報・希望・気づいた事を記録に残し、思いや意向の把握に努めている。	職員は、日常生活の中で表情や動作、会話から確認した思いや希望を、日報やノートに記録し、申し送り時に情報を共有している。また、家族にも情報を共有し、思いや意向を把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様・ご家族様・前の担当ケアマネジャーから情報を収集したり、本人様の会話の中から幼い時からの生活歴等の情報収集する事により、思いや意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に記入したり、記録の読み返しを行う事により、利用者様の現状や問題点を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスの場を設け、意見を出し合い、その意見を反映させた介護計画を作成している。	介護計画者が原案を作成し、利用者の担当職員がアセスメント、3ヶ月毎のモニタリングを行い、ミーティングで話し合っている。事前に医師や看護師の意見を確認し、利用者、家族の思いを反映した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に日々の様子や変化を記録し、朝・夕に申し送りを行っている。また、早急な事や、変化の気づき等あれば、連絡ノートに記入し情報の共有や計画の見直しもを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や・ご家族様の状況に応じてアセスメントを行い、特別な事に関しては、十分に検討し、柔軟に対応するよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域の行事の中止や縮小があり殆ど交流の機会がなかったが、今年度は開催の予定であり、5月に御車山祭りで地域の住民と交流することができた、8月に納涼祭、10月に防災訓練、11月に文化祭等予定されており、参加する予定になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人様・ご家族様の希望に沿う形で決定しており、日頃の様子や相談事は、受診の際、書面でお伝えしたり、緊急時は電話で連絡し、対応方法等を指示してもらっている。	利用者、家族の希望を確認して、家族の協力で受診している利用者もいる。受診時は近況を書面で渡している。訪問診療を受けている利用者については、事前に状態を病院にFAXしている。状態の変化や結果は日報やノートに記録し、職員が共有できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回の勤務で出勤しているが、イレギュラー時はその都度連絡し対応してもらっている。また、日頃の情報や、気づきについて報告しアドバイスをもらっており、情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報の提供を速やかに行っており、病院関係者との連絡を細目に行い、退院前のカンファレンスへの出席や看護サマリーの依頼等を行い、出来るだけ多くの情報を得ることで、退院後も安心して過ごしていただけるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明でも、重度化した場合を想定した内容での説明は必ずしており、看取りについても選択肢のひとつである事は伝えている。	看取り対応を行っている。入居時に利用者、家族に重度化した場合の対応、指針について説明を行っている。重度化した場合、家族の思いを確認し、医師、看護師、職員が連携し、支援できる体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や、初期対応についての研修会を毎年行っていたが、前年度は集合研修が中止となり開催できなかったが、ウェブ研修で一部職員のみ行っている。今年度は開催を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練は、昼の想定で前年6月と今年4月、夜の想定で今年2月に行った。水害を想定した避難訓練は前年11月に行った。地震については、避難訓練は行っていない。	火災避難訓練は年2回以上行っている。また、水害避難地域に指定されているため、避難場所までの移動を試験的に実施したが、道路状況により移動が困難であったため、2階への移動や地域住民の協力が得られるように配慮している。マニュアル作成や備蓄品は確保している。	BCPIは作成中であり、地震時の避難、防災グッズの対応がされていないため、昨今の状況の中で早急な対策ができるよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねる言葉使いや、対応に気を付け、トイレ誘導の声掛け等もさりげなくプライドを傷つけないよう配慮したり、訪室する時も一声かけて入室するようプライバシーに配慮した支援を行っている。	尊厳を守るため、各ユニットで声掛け（スピーチロック）についての研修や、毎月のミーティングで話し合い、プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からの会話や様子から本人様の希望・要望を把握し、いくつかの選択肢からなるべく自己決定して頂くよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを大事にして、できる限り本人様の希望にそえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節毎の衣類の交換を行い、部屋担当者が中心になり、タンス内の整理に努め、その時の気分に応じた衣類を選びやすいように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日、月1回の特別食は利用者様の意見を聞いて提供している。またホーム喫茶の日を設けて、利用者様に選択して頂いて食事や飲み物を楽しんで頂いている。テーブル拭きや茶碗拭き等も一緒に行うよう努めている。	法人の管理栄養士が作った献立と、利用者の希望を参考にして、材料の買い出しをし、手作りで調理をして提供している。利用者は下準備や後片付けを手伝い、特別食や喫茶の日を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立に基づいて調理し、咀嚼や嚥下状態に合わせた形態の食事を提供する事で摂取量を確保している。水分量も記録を確認し、少なければ好きな物を提供し適量摂取して頂くよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、自立の利用者様は見守り・確認をし、介助の必要な利用者様は、過剰介護にならない様できていない部分を介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを記録より把握し、パットの使用を抑え、立位ができる利用者様はトイレでの排泄を行っており、自立できる事はいただいている。	利用者の記録は、パソコンやタブレットに入力し、排泄パターンを確認している。利用者のお大半は自力でトイレで排泄を行い、見守りで介助が必要時には支援している。夜間、安全確保のためポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼らないよう、水分摂取・運動・食べ物を工夫しており、適宜 牛乳等の提供をしたり、ゆっくりと排便できるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員配置の関係上入浴時間は決めさせて頂いているが、入浴の順番は本人の希望にそうように配慮しており、入浴時も、急かさず、ゆっくりとリラックスして入浴できるように努めている。	一般浴(2階)と特殊浴(1階)があり、利用者の状態に合わせ、月～土曜日の週2回程度入浴できるよう支援している。季節に合わせて柚子を入れたり、利用者がゆっくり入れるよう、声掛けや話を聞いたりするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の希望に応じて適時静養の時間を設けており、各個人が安眠できるよう室温や環境整備にも配慮している。また、夜間寝れない時はお茶を提供したり、話相手になったりして安心して過ごして頂くよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイリングして、いつでも職員が見る事ができるようにしてあり、症状に変化が見られた時は支援経過に細かく記入するとともに管理者に報告し、状況によっては、主治医・看護師に連絡し医療との連携をはかっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアで過ごしている時間は、その時々気分に応じた作業の提供やレクリエーションを無理強いせずに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、ご家族様との外出は制限しているが、行事で企画したドライブの他、近場の散歩等を行っている。今後の状況次第では、ご家族様との外出や、希望者には職員との買い物等を増やしていく予定にしている。	駐車場や近隣の散歩、人混みを避けた花見ドライブ、御車山の見学など行っている。コロナ禍が緩和されたことで、家族との外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者様自身がお金を管理する事の大切さを理解しているが、共同生活のなか、紛失・物取られ妄想等のリスクが伴い、他の利用者様への影響も考えられることから、ご家族様の理解を得て、使用には立て替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の同意を得ている利用者様にはご希望があれば好きな時に電話をしてもらったり、手紙やはがきを出してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整や光の入り方、雑音等にも配慮し、不快感なく、居心地よく過ごせるように努めている。共有フロアには利用者様が作成した作品を展示したりして、季節感も味わって頂けるよう工夫している。	玄関フロアは広く、コロナ禍での家族との面会時に活用されている。各ユニットそれぞれの色合いが異なっており、1階は活発な感じ、2階は落ち着いた感じで雰囲気を変えている。大きな窓からの採光と、その外にベランダがあり、野菜作りや日光浴ができるようになっている。壁には月日、季節を感じられるよう作品や写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他にソファも設置して、自由に過ごして頂けるように配慮している。席の位置も、性格や趣味を把握し気の合った者同士が相席するようにし、会話を楽しめるよう気配りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はプライベートな空間として、危険物以外の持ち込みは制限をかけておらず、ご家族様にも写真等の持ち込みをお願いしており、繋がりを感じられるようにしている。	居室にはベッド、整理棚、洗面台が設置され、窓には張り替えられえただけの障子戸と白の壁紙で明るく、清潔感がある。利用者の写真や作品の他、家族とのつながりを大切にとの思いで家族の写真が飾られている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間を広く使えるように、障害物となるべく置かない様努めており、トイレの表示や個々の居室に名札をつけたり、日付の表示札を作ったりと場所や物・日にちが認識できるよう工夫している。		

目標達成計画

作成日: 令和 5年 6月 26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	BCPは作成中であり、地震時の避難、防災グッズの対応がされていないため、昨今の状況の中で早急な対策ができるようにする。	自然災害時のBCP持続計画を、ご家族・地域との連携が取れる、実践に合った計画を作成する。	運営推進委員会や、地域の集まりに参加して、お互いに協力できる部分、できない部分を洗い出し、計画に反映させ同意を得る。 家族会や機関紙を通じて、家族の意見を収集・協力を依頼し、計画に反映させ、同意を得る。	6ヶ月
2	35	BCPは作成中であり、地震時の避難、防災グッズの対応がされていないため、昨今の状況の中で早急な対策ができるようにする。	非常事態に職員が対応できるようにする。	必要な防災グッズの準備を行う。 計画作成にあたり、職員も参加して計画を作成し、役割分担を明確にしておく。 計画作成完了後、職員に施設内研修会を行う。 関係者を含んだ訓練を実施する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	☐ ②利用者へサービス評価について説明した
	☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	☐ ⑤その他()
2 自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
	☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	☐ ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	☐ ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	☐ ⑤その他()
5 サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	☐ ⑤その他()